



『東北圏だより』

復興の象徴「世界遺産平泉」 岩手県

2月13日（月）、岩手県平泉町の平泉文化遺産センターで、平泉世界遺産認定書授与式が開催されました。授与式では、イリーナ・ボコバ・ユネスコ事務局長から直接、達増拓也岩手県知事、菅原正義平泉町長に、世界遺産認定書が授与されました。ユネスコ事務局長が自ら認定書授与式に出席することは稀なことですが、被災地への連帯の気持ちを示すため来日されました。

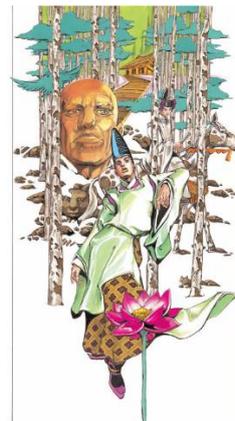
ボコバ事務局長は、「平泉の世界遺産登録は、東日本大震災に見舞われた日本に、国際社会が支持、支援を示している証し」と祝意を表しました。また、記者会見では、平泉を復興の象徴として、「世界遺産登録により観光などの経済活動が促進されることを祈る。特に地元の人々に、自信をつけてほしい。」と話し、世界遺産条約採択40周年記念開幕式典を岩手県一関市で開催したことについては、「平泉の美しさを世界に広めるために開催した」と述べられました。

昨年7月3日、達増知事は、平泉の理念を胸に復興に取り組む決意を表した「東北復興平泉宣言」を発表、仙台市出身の漫画家荒木飛呂彦氏にイメージイラストを描きおろしていただき、国内外へ平泉の理念を発信しています。

また、32年ぶりとなる「いわてデスティネーション・キャンペーン」が、4月1日から6月30日まで展開され、いわての自然や文化を広く全国に発信していきますが、「世界遺産平泉」は復興の象徴としてその中核を担っていきます。



▲ボコバ事務局長から認定書を受け取る達増知



荒木飛呂彦氏による「東北復興平泉宣言」イラスト

©LUCKY LAND COMMUNICATIONS

取組推進PT（プロジェクトチーム）の動き

○平成23年度第2回『新エネルギー等の導入促進』PT会議

再生可能エネルギー導入、エネルギー使用のスマート化、温室効果ガス排出削減などの施策を効果的効率的に展開するため、平成24年2月17日に仙台市内で開催の平成23年度第2回「新エネルギー等の導入促進PT会議」において、国の出先機関から各府省の平成23年度第三次補正予算、平成24年度予算の最新情報を提供しました。

また、参加自治体からは、岩手県三陸地域における海洋再生可能エネルギー研究・導入構想、宮城県の前年度住宅用太陽発電補助制度、新潟県型メガソーラーの稼働実績が報告され、このうち、新潟県の取組は、CIS 薄膜太陽電池の特性と雪国に適した傾斜角とが相俟って計画比120%の年間発電量を達成し、メガソーラー用地を選定する上での朗報となりました。

次回の「新エネルギー等の導入促進PT会議」については、平成23年度第3次補正予算による事業が具体的に実行される段階等のタイムリーな時期に開催する予定です。



▲PT会議の様子

「米代川流域圏における低炭素型国土形成のための連絡協議会」

～23年度第1回協議会が開催されました～

平成24年2月21日に秋田県北秋田地域振興局（北秋田市）において、23年度第1回連絡協議会が開催されました。

本連絡協議会は、22年度に国土交通省で実施した「低炭素型国土の形成に関する調査」の広域圏モデルとして、米代川流域圏の10市町村を対象に設置されたもので、これまでに流域圏におけるCO₂排出量の現状と将来推計や考えられるCO₂排出量削減対策のポテンシャルの確認とその実現に向けた工程表案について検討を行ってきました。

今回の連絡協議会では、各自治体の2008年度（最新）のCO₂排出量推計結果が報告されるとともに各自治体からの取り組み報告では、大館市から「木質ペレット燃料利用推進の取り組み」に関して、今年度、環境省東北地方環境事務所の地産循環圏形成推進調査事業の一つに採択された「間伐材の収集運搬モデル事業」で実施したアンケート調査の結果が報告されました。今後、3月末までの期間で収集運搬の実証調査が予定されています。

また、八幡町から地中熱ヒートポンプの庁舎導入や町有林J-VERプロジェクトの実施について、八幡平市から地熱発電を始めとする豊富な自然エネルギーの推進、地産地消について報告があり、今後の具体的な取り組みに向けて活発な意見交換が行われました。



▲連絡協議会の様子

第3回東北発コンパクトシティPT会議を開催

東北圏広域地方計画の広域連携プロジェクトである「都市と農山漁村の連携・共生による持続可能な地域構造形成プロジェクト」を推進するため、横手市や長岡市などのモデル都市をケーススタディとした各種検討や、モデル都市の取組状況、並びに今後の進め方等について、PT構成機関の他、アドバイザーである学識経験者を交えた「東北発コンパクトシティPT会議」（主査機関：東北地方整備局）を平成24年2月21日に開催しました。

本会議では、地域内で連携して取り組みを実施した際の「効果の見える化」として、「公共施設の再編」、「公共交通の広域的な路線再編」、「既存ストックを活用した集落機能の強化」の3点に着目し、それらの先進的な取組事例を整理しつつ、モデルケースを設定し、その試算方法並びに試算した定量的、定性的な効果を報告しました。その後、モデル都市である横手市と長岡市から今年度の取組状況を報告していただきました。これらを踏まえ、PT構成機関やアドバイザーから、「自治体で立案する都市計画マスタープランの中にコンパクトシティの考え方を落とし込んで行くべき」、「課題を解決したいと考えている自治体からアドバイスを受けたいとの意向があれば、本PTメンバーが集まる機会を作ったらどうか」等の意見を頂きました。

↓PT会議の詳細については、こちらをご覧ください。

<http://www.thr.mlit.go.jp/compact-city/contents/projectteam/index.html>



▲東北発コンパクトシティPT会議

広域地方計画に係わる動き

○東北圏広域地方計画変更に向けたワーキンググループの設置・開催

1月26日に開催された第19回東北圏広域地方計画協議会検討会議幹事会で設置が議論されたワーキンググループ（以下WG）について、WGの作業内容・スケジュールを再検討し、構成機関の皆様にも再度お示したところ、WGの設置に賛同が得られたことから、2月8日・16日・24日の3回にわたり開催しました。

WGでの計画変更に向けた検討項目は以下の通りです。

1. 全体の枠組検討
 - ・検証・点検作業を踏まえた計画変更のポイントの検討・整理
 - ・全体枠組みの考え方の整理
 - ・変更の基本的考え方
2. 第4章（戦略的目標と実現のための主要な施策）の構成変更の基本方針検討
3. 第4章の目次構成検討
4. 全体の目次構成検討



▲第1回WGの様子

WGでの検討にはブレインストーミング法を用い、検討項目に対して参加者が自由に意見を述べることで、様々なアイデアを得ることが出来ました。特に第4章の目次構成検討では、新たな戦略的目標の設定の必要性やそれに盛り込むべき内容について様々な意見が出され、「復興」「災害に強い」をキーワードに盛り込むことで合意されました。WGで得られた検討結果については、今後、事務局でとりまとめ、3月中に開催される幹事会に提示する予定です。

編集後記

東日本大震災から1年が経過しました。

亡くなられた犠牲者の皆様のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

今回は、協議会構成機関の中から「平泉世界遺産認定書授与式」についてご寄稿いただきました。

11世紀、東北では前九年の役、後三年の役による戦乱で町は破壊され、家族を失い、多くの人々が命を落としました。奥州藤原氏初代清衡は、この深い悲しみの中から、御霊を慰め、平和で清らかな理想郷の実現のために金色堂を建立し、藤原三代により、長い戦乱で疲弊した当時陸奥である東北を再建し、100年にわたり、京を凌ぐ、平和で豊かな文化咲き誇る国を造り上げました。

震災では、津波により2万に近い方々が犠牲となり、町は破壊尽くされました。この深い悲しみの中であって、被災地が、当時の平泉のように清衡が願った浄土のような清らかで豊かな地域に復興していくことを願わずにはいられません。

新たな東北圏域の復興と発展のため、今後とも構成機関のみなさまのご協力をよろしくお願い申し上げます。

『東北圏だより』に掲載する広域地方計画に関連する情報をお寄せ下さい。また、『東北圏だより』へのご質問、ご意見、ご要望等についても結構です。お気軽に次のアドレスまでメールでお寄せ下さい。

メールアドレス：kou-suishin2@thr.mlit.go.jp